

第1学年 道徳科指導案

場 所：1年3組教室

授業者：●●●●

I 主題構成表

主題名 「やさしい ころろ」 教材名「はしのうえのおおかみ」

■内容項目 B—(6) 親切・思いやり 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	■内容項目から見た児童の実態 親しい友だちに対しては、張り切っ て親切な行いをしている。 親切はよいことであり、親切な行 いをするとよいことは、十分理解して いるが、自分の都合や気分によって、 親切にできたり、できなかったりす る。相手の立場や気持ちがどうであ るかを考えることなく、親切の押し売 りをしているところも見られる。仲間 や身近な人に対して、相手の立場や 気持ちを考えて親切な行いをするこ とが大切であることに気付かせたい。 ■要因 相手の立場や気持ちを推し量っ て行動しようとする思いやりの心や 態度がまだ育っていない。	■教材の分析 一本橋の上で、次々と渡ってくる 自分より弱い動物たちに意地悪をし て、面白がっていたおおかみが、自 分より力の強いくまと出会った。その くまに、思いがけず優しく橋を渡して もらったことで、自分の行動を反省 し、今度はくまの真似をして他の動 物たちに優しくするという内容であ る。 場面ごとに変化していくおおかみ の気持ちを追いながら、親切にされ たときの気持ちをとらえることを通し て、親切にすることの大切さに気付 かせたい。 親切にすることは、相手だけでなく 、自分の喜びにもなることに気付 き、思いやりの心をもって、人に親切 にしたいという心情を養いたい。
---	---	--

■ねらい 意地悪をしていた時のおおかみの気持ちと親切にされた後のおおかみの気持ちの変容について考えることを通して、相手の立場や気持ちを考えた行為は、相手だけでなく自分もとてもよい気持ちになることに気づき、身近な人に対して温かい心をもって接し、親切にしていこうとする心情を育てる。

■研究内容との関わり 研究内容1—(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫 ・魅力ある教材の提示 研究内容1—(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫 ・価値理解を促す主発問の位置付け 研究内容1—(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫 ・本時学んだ価値について振り返り、よりよい生き方について考える場の位置付け	■基本発問(◎中心発問) ○「ころころ、もどれもどれ。」と言って動物たちを追い返し たおおかみさんは、どんな気持ちでしたか。 ○くまさんの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみさんは、 どんなことを考えていたでしょう。 ◎うさぎさんを後ろへそっとおろしてやったおおかみさん は、どんな気持ちでしたか。
--	---

本時の展開

	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>1. 教材に対する興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートを見て、登場人物を知る。 ・簡単な物語の流れを聞いて、どのような話なのか興味をもつ。 	<p>研究内容1-(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートを使い、教材に引き込む。 ・おおかみの気持ちがどのように変わっていったかを考えながら教師の範読を聞くように話す。
展開前段	<p>2. 教材「はしのうえのおおかみ」の範読を聴いて話し合う。</p> <p>○「こらこら、もどれもどれ。」と言って動物たちを追い返したおおかみさんは、どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな言うことを聞いてくれて、いい気持ちだな。 ・俺は強いんだぞ。 ・意地悪をするのは楽しいな。 ・みんな弱いから威張ってやれ。 <p>◎くまさんの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみさんは、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまさんは、優しいな。 ・橋を渡らせてくれてありがとう。 ・うさぎさん、たぬきさん、きつねさんに悪いことしたな。 ・くまさんに親切にしてもらって、嬉しかったな。 ・僕も、くまさんのように親切にしたいな。 <p>○うさぎさんを後ろへそっとおろしてやったおおかみさんは、どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前はごめんね。 ・今までよりもいい気持ち。 ・優しくすると、こんなにいい気持ちなんだな。 ・親切にするって、いいな。 ・うさぎさんが喜んでくれて、僕も嬉しいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作化を取り入れる。 ・うさぎやたぬき、きつねの不快な気持ちも押さえる。⇒よい気持ちなのは、おおかみだけで、自分勝手であることに気付かせる。 ・うさぎを抱き上げて橋を渡る役割演技をすることで、おおかみの心情を掴ませる。 ・おおかみとうさぎの気持ちにふれ、親切にしたりされたりすると嬉しいことを押さえる。 <p>研究内容1-(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意地悪をしていたおおかみさんの「よい気持ち」とうさぎさんを渡した後の「よい気持ち」は同じですか。違いますか。
展開後段	<p>3. 価値を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切にすると、された人も自分も気持ちがよくなる。 ・自分のことばかりではなく、人の気持ちを考えることが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやって親切にすることのよさを考えさせ、温かい心をもって、人と接することの大切さに気付かせる。
終末	<p>4. 振り返りを記入する。</p> <p>「おおかみさんへの手紙」を書く。</p> <p>① おおかみさんの素敵などころを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおかみさんは、初めはみんなに意地悪をしていたけど、くまさんに優しくしてもらって、自分も優しくしたのがすごいね。 <p>② 自分の体験とつなげて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が一人で重いバケツを持っていて重たそうだったので、自分からお手伝いしました。「ありがとう。」と言ってもらえて、私も嬉しかったです。 <p>5. 教師の説話を聞く。</p>	<p>研究内容1-(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はしのうえのおおかみ」について話し合ったことから、おおかみの素敵などころを考え、同じように、今までの自分の生活の中で「親切な行い（思いやりのある行動）をしたこと」を振り返り、親切にすることのよさを感じさせる。